

ほっかいどう

その先の、道へ。北海道 Hokkaido. Expanding Horizons.

3

March 2024
令和6年2月発行
vol.254

特集

次世代半導体をトリガーに、 世界に挑む北海道



ラピダス社が千歳市に建設する工場の完成予想図。「新しいイノベーションを起こすものづくりの現場」として、Innovative Integration for Manufacturing(イノベティブ・インテグレーション・フォー・マニュファクチャリング)、略して「IIM(イーム)」と名づけられています

©Rapidus Corporation ©KAJIMA CORPORATION

ラピダス社の立地という好機を最大限に生かし、本道経済の活性化につなげていきます



ラピダス社の立地決定時に握手を交わす小池淳義社長(右)と鈴木直道知事(左)

デジタル化は、IT産業をはじめ幅広い産業で変革をもたらしており、わが国の社会課題の解決や持続的な成長にも必須のテーマとなっています。また、デジタル機器や電子部品に欠かせない半導体は、あらゆる産業のデジタル化を下支えする重要物資として、安定的な確保が必要です。

こうした中、国家プロジェクトの一環として、2022年8月、次世代半導体の量産製造を目指すRapidus株式会社(以下、ラピダス社)が設立され、2023年2月28日、同社工場の立地が千歳市に決定しました。現在、2025年の試作ライン稼働、2027年の量産開始に向け、ハイスピードでプロジェクトが進んでいます。

この次世代半導体プロジェクトは、道内では過去最大となる5兆円規模の投資が見込まれており、暮らしや産業などに大きな効果をもたらすことが期待されています。

道としては、ラピダス社の立地という好機を最大限に生かし、半導体の製造、研究、人材育成などが一体となった複合拠点を実現するとともに、食や観光、再生可能エネルギーなど本道の強みである産業振興とあわせて、本道経済全体の成長に結びつけていくため、オール北海道で目指すべき指針となる「北海道半導体デジタル関連産業振興ビジョン」を2023年度内に策定する予定です。

ビジョン策定後は、産学官の関係者が緊密に連携し、半導体関連産業の集積はもとより、道内企業の参入促進や取引拡大、人材育成・確保に取り組むなど、本道全体の経済活性化と持続的発展につなげていきます。